

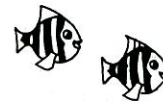
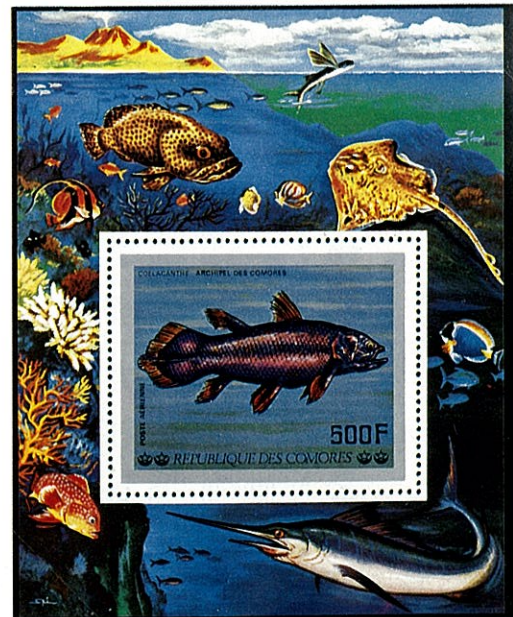
シーラカンス(1)

分類：管椎目 シーラカンス科

学名：*Latimeria chalumnae*

英名：Coelacanth

1938年南アフリカのカルムナ川の沖合で、トロール漁船により漁獲されるまで、7,000万年前に絶滅していたと考えられていた、原始的な魚類で正に生きている化石と呼ぶにふさわしい。体長1.5m、体重50kg位で頭部は固いカブト状で、口腔には鋭い歯がならぶ。体色は褐色味をおびた暗青色で、体表はサメ類と同じ小さな歯状突起のある鱗で被われている。他の魚類と異なる最大の特徴は、胸鰭が鱗のある筋肉質の柄の先についており、尾鰭は体の後端が段々にうすくなり、そのまま上下に分れて尾鰭を形成する。シーラカンスとは「中空の棘」の意味で、化石を含め鰭の棘条はすべて中空である。その後マダガスカル島周辺より数十尾漁獲採集されている。



シーラカンス(2)

